令和２年度　弥彦小学校 学校だより

いきいき弥小っ子

No.24（３月８日号）

「ありがとう」があふれる６送会　＆　「雪とけて　校庭いっぱいの　子どもかな」

校長　石黒　和仁

校庭の梅が咲き始めました。すっかり春めいてきましたね。先週の分散授業参観には多くの方からご来校いただきました。年度末の子どもたちの姿はどうだったでしょうか。良かったことなど感想をお待ちしております。

さて、１日（月）の分散全校朝会では、次のような話をしました。

26日（金）の６年生を送る会はとてもよい会でした。６年生のダンスなど、みんながカッコよかったです。６年生への「ありがとう」、６年生から在校生への「ありがとう」の気持ちがよく表れていました。特に会を企画・運営した５年生のがんばりはすばらしかったです。

さて、ついこの間までは辺り一面雪でしたが、最近はめっきり暖かくなりました。その様子を表す俳句です。

「○とけて　○○いっぱいの　○○○かな」

どんな言葉が入ると思いますか。正解は「雪とけて 校庭いっぱいの 子どもかな」です。小林一茶の俳句「雪とけて 村いっぱいの 子どもかな」を改作して示しました。

雪解けの季節を迎えて、待ちかねていたかのように子どもたちが外へ飛び出し、村中で遊んでいる。俳句が読まれた江戸時代の山間部は生活が厳しく、飢えや寒さによって多くの子どもたちが命を落としていた。そんな中でも無事に春を迎え、元気な子どもたちが大勢いることに、一茶はよりいっそう心を打たれたのではないか、と言われています。時代や環境は大きく異なりますが、こうやってみんなが元気に３月を迎えられたこと、天気がよいと外で遊ぶ姿を見て嬉しくなります。今年度もあとわずかになりました。新型ウィルス対応をしながらも、３月も楽しい弥彦小学校を、６・５年生を中心に、みんなでつくっていきましょう！＊声を出さずに「1、2、3、オー！（拳を上に）」

６年生によるダンス
BTSの「Dynamite」

ＮＲＴ（標準学力検査）について

１月末に実施したＮＲＴ（標準学力検査）の結果をお知らせします。

多少の差はありますが、全学年がほぼ全国並と言えます。学校全体は 50.5 で、昨年度よりも+0.9 となり、わずかですが全国平均を超えました。授業づくり、学力向上の取組の成果が出てきているのではないかと思っています。

とはいえ、本校にとって学力向上が喫緊の課題であることには変わりありません。まずは、結果を基に学級指導及び個別指導を行います。そして、子どもにとって「分かる」「できる」が実感できる授業づくり、学習規律の徹底等を継続していきます。ご家庭では、家庭学習の場と時間の確保、見取りと励ましを引き続きお願いします。

なお、後日、学年便りで学年の結果等をお知らせすると共に、子どもの個票をお渡しします。ご確認ください。

（文責：３月、別れのシーズンに入り、何となくセンチメンタルになっている石黒。
子どものがんばる姿やスポーツ、ドラマ、ドキュメンタリーを見ては…。）